

論文の種類

教育・研究活動記録

題目

(和文) 学生の主体性と人間性を育む大学体育ハンドボール授業の実践記録：

ティーチング・ポートフォリオ・チャートを用いて

(英文) A Practice-Based Study of a University Physical Education Handball Class Aimed
at Fostering Student Agency and Humanity : Using a Teaching Portfolio Chart.

著者名

(和文) 伊東裕希 1) 2)

(英文) Yuki Ito 1 2

所属機関

(和文) 朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科 1)

(英文) School of Health Sciences, Asahi University 1

(和文) 鹿屋体育大学大学院体育学研究科および筑波大学総合科学学術院・大学体育スポーツ高度化共同専攻 2)

(英文) Joint Doctoral Program in Advanced Physical Education and Sports for Higher
Education, Graduate School of Physical Education, National Institute of Fitness
and Sports in Kanoya, and Graduate School of Comprehensive Human Sciences,
University of Tsukuba 2

著者連絡先

メールアドレス s-ito@asahi-u.ac.jp

本稿は、筑波大学と鹿屋体育大学による博士課程・大学体育スポーツ高度化共同専攻の必修科目として開講された 2026 年度「大学体育論」全 10 回のうち、7～10 回目の授業で作成したティーチング・ポートフォリオ・チャート（栗田・吉田，2021）およびその後にレポートとしてまとめたティーチング・ステートメントを整理し，教育活動記録として報告するものである。本稿では，東京都市大学 FD 推進センター（2020）「ティーチング・ポートフォリオ成果報告書」における都市大型ティーチング・ポートフォリオ（一般的にはティーチング・ステートメントに類型されるもの）における，「はじめに，1. 責務，2. 理念，3. 方法，4. 結果，5. 目標，おわりに」の枠組みとおおよその文字数に倣い，執筆する。以下では，ティーチング・ポートフォリオを TP，ティーチング・ポートフォリオ・チャートを TP チャートという。

はじめに

著者は，2021（令和 3）年 4 月より朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科に助教として着任し，2022（令和 4）年 4 月より同学部学科の講師として務めている。主に専門科目の講義と実技を担当し，その他にも教養科目の実技や他学部の健康に関する講義も担当している。大学体育授業では，運動技能の習得だけでなく，主体的な学習態度，他者との協働，社会性の涵養などが期待される。しかし，若手大学教員が自らの授業理念をどのように形成し，それを授業方法や評価にどのように反映させているのかについては，個別実践の記録として十分に共有されているとはいえない。本稿は，TP チャート作成を契機とした自己省察を通じて，大学体育授業における教育理念・方法・成果・課題を整理するものである。

1. 責務

2025（令和 7）年度に担当した科目や教育活動を表 1 に示した。

表 1 を挿入

著者は，健康スポーツ科学科における専門科目，教養スポーツ実技，他学部対象の健康・スポーツ関連科目を担当している。また，体育会ハンドボール部監督および JOC 強化スタッフとして，正課内外のスポーツ指導にも携わっている。これらの教育・指導活動のうち，本稿では，専門選択科目「スポーツ VI」におけるハンドボール授業を中心的な省察対象とした（図 1）。

図 1 を挿入

2. 理念

「スポーツVI（ソフトボール・ハンドボール）のハンドボール回」における著者自身の理念は、下記 3 つがあげられる。

理念 1：主体性を尊重した学び

学生が自ら課題を発見し、考え、判断し、行動する主体的な学びを重視している。授業や部活動では、一方的な知識・技術の伝達では不十分であり、学生同士の対話や協働、振り返りを通して、自ら学びを深めることができる環境づくりを目指している。また、自主的な挑戦や試行錯誤を支援し、生涯にわたり学び続ける姿勢を育成することを重視している。

理念 2：人間形成

本稿でいう人間形成とは、スポーツ場面における礼節、責任ある役割遂行、他者との協働、フェアプレー、リーダーシップなど、集団的な身体活動を通じて形成される社会的・対人的な資質を指す。授業や部活動における多様な人との関わりや集団活動を通して、自他を尊重し、他者と協働しながら課題を解決できる人材の育成を目指している。

理念 3：一人ひとりの価値と魅力を育む

本稿でいう一人ひとりの価値と魅力を育むとは、学生の技能水準や運動経験の違いにかかわらず、それぞれが授業の中で自分にできることや役割を見つけ、仲間との関わりを通して自分の役割や存在が認められる経験を得られるようにすることである。さらに、こうした経験を積み重ねることで、自らの成長を実感できるよう支援することを指す。個々の特性を認め、それぞれの可能性を最大限に引き出せるよう支援するとともに、学生自身が自らの価値や魅力に気づき、自信を持って主体的に行動できるような学習・指導を実践している。個性を尊重しながら成長を支援することで、社会において自らの強みを発揮できる人材の育成を目指している。

3. 方法

教育理念・授業方法・根拠資料の対応表を表 2 で示した。

表 2 を挿入

「スポーツVI（ソフトボール・ハンドボール）」の授業は、1 回目授業がガイダンス、2

回目～8 回目がソフトボール，9 回目～15 回目がハンドボールの全 15 回で構成されている。そのため 7 回という少ない授業回数のなかで，学生たちが目標を達成できるように工夫した授業展開を行う必要がある。

方針 1：スポーツ活動を楽しむ，主体的に学ぶ姿勢づくり

教員が一方的に技術指導をするだけではなく，個人スキルの実践や試合を通して学生自身が課題を見つけ，その解決方法を考える場面を設定している。また，グループで作戦や練習方法を話し合う機会を設け，学生同士の対話や協働を促している。さらに，授業の最後にはリフレクションを行い，自身の学びや今後の課題を整理することで，主体的な学習に繋げる取り組みを行っている。また，著者自身も活動に参加することで，スポーツを楽しむことや積極的なチャレンジを促している。

- ・単元の初めに授業目標や到達目標を提示し，学生自身が個人目標を設定する

- ・試合の時間を多く確保し，学生が課題を発見できる機会を設ける

- ・チームごとに作戦や練習方法を話し合う時間を設定する

- ・授業終了時に毎回フィードバックを記入し，学びと課題を整理する

方針 2：社会性と共同性を育む学び

授業ではチーム活動を基本とし，学生同士が互いに声を掛け合い，協力しながら活動できるよう工夫している。また，準備や片付け，審判などの役割を学生が分担して担うことで，責任感や主体性を養っている。さらに，勝敗だけでなく，フェアプレーなどの相手を尊重する姿勢にも配慮し，人間的な成長を促している。

- ・授業開始，終了時の挨拶や時間厳守を通じて，集団活動に参加する者としての責任ある態度を共有する。

- ・用具の準備や片付け，審判や得点係など競技と運営を学生主体で行うことを促す

- ・チーム活動を主とし，リーダーなどの役割を経験する機会を設ける

- ・毎回活動するチーム編成を変える

方針 3：それぞれの成長を支える運動学習

運動経験や技能の差異を踏まえ，一人ひとりが成功体験できるよう授業内容や役割を工夫している。また結果だけでなく，努力や挑戦，仲間への貢献などの過程を積極的に評価し，学生の自己肯定感を高められるよう努めている。さらに，学生同士が互いの良さを認め合い，支え合う学習環境を整えることで，一人ひとりが安心して自分らしさを発揮できる授業を心掛けている。

- ・成功体験が得られるような段階的な課題設定をする
- ・一人ひとりに対して肯定的なフィードバックを行う
- ・学生同士による相互評価の場面を設ける
- ・タブレットや動画を用いて自己分析を行う時間を設ける

4. 結果

2025 年度後期に実施された授業評価アンケートの結果を表 3 に示した。

表 3 を挿入

「Q1. この授業内容を、あなたはどの程度理解できましたか。」「Q2. この授業に対して、あなたはどの程度満足しましたか。」という 2 つの設問については「理解できた」「満足した」と回答した学生の割合が比較的高かった。これらの結果は、本授業が学生に一定程度肯定的に受け止められていたことを示すものである。また、自由記述には、「楽しく学ぶことができた」「先生が雰囲気を作ってくださりとても活動しやすく楽しかった」「ゲーム中心の活動の中で知識も増えて良かった」などの記述がみられた。これらの記述は、本授業の実践を支えた 3 つの理念と関連するものであり、「楽しく学ぶことができた」「ゲーム中心の活動の中で知識も増えて良かった」という記述は、スポーツ活動を楽しみながら学ぶことや、ゲームを通して学習内容を捉えることに関連する内容であり、「主体性を尊重した学び」と関連するものと考えられる。また、「先生が雰囲気を作ってくださりとても活動しやすく楽しかった」の記述からは、学生が安心して活動できる授業環境を肯定的に受け止めていたことがうかがえ、「一人ひとりの価値と魅力を育む」という理念における、学生一人ひとりが授業に参加しやすい環境づくりに関連すると考えられる。一方、今回の自由記述からは、「人間形成」に関する学生の受け止めに直接的に示す記述は確認できなかった。

授業アンケートの結果から、「主体性を尊重した学び」や学生が参加しやすい授業環境に関連する記述がみられ、本授業における実践の一端が学生から肯定的に受け止められていたことが示唆された。ただし、本アンケートは授業内容の理解度や満足度、授業に対する感想を把握するものであり、これらの結果のみから、主体性や人間形成、一人ひとりの価値や魅力の育成といった教育的成果の変容を直接的に判断することはできない。そのため、これらの理念に関わる教育成果については、今後、授業後のリフレクション記述や授業内の学生の行動等を継続的に分析する必要がある。

5. 目標

TP チャートを作成し、これまでの授業実践を改めて振り返ることで、自分がこれまで行ってきた授業上の工夫には、共通する理念があったことを認識した。それは、「主体性を尊重した学び」「人間形成」「一人ひとりの価値と魅力を育む」という3つの理念であった。これまで、ゲームを中心とした授業展開や授業内での役割分担は、学生が競技に多く触れるための工夫として捉えていた。しかし、TP チャートを通して実践を振り返ったことで、これらは単に競技経験を増やすためだけのものではなく、学生自身が課題を考え、仲間と関わりながらそれぞれの立場や役割を見つけていくための学習機会として位置づけていたことに気づいた。

この振り返りを通して明確になった自身の教育理念を、今後の授業実践においても大切にしながら学生一人ひとりの学びや成長に繋がる授業づくりを継続していきたい。そのためにも、これまでの実践を振り返るだけでなく、実践を通して得られた気づきを今後の教育活動に活かしていくことが重要である。

短期的な目標としては、博士論文の執筆と TP・TP チャートで可視化された教育理念を基に教育実践を継続的にやっていくことである。具体的には、博士論文においては指導者に関する研究を着実に進め、年度内の論文投稿と3年間での博士課程修了を目指す。博士論文で取り組む指導者研究の視点を、大学体育授業や部活動指導における学生理解・指導者行動の省察にも還元していきたい。

また教育活動においては、次年度は、授業後リフレクションの設問を、①個人の技能・理解、②チーム内での役割、③他者との協働、④自分自身の成長実感、の4観点に整理し、教育理念と学生の学びの関係を継続的に確認する。

長期的な目標としては、教育・研究・社会貢献という3つの柱において誠実に実績を重ね、学生・研究コミュニティ・社会のいずれからも信頼される大学教員となることを目指す。これらを実現するため、短期的な目標を1つずつ確実に達成しながら、長期的な成長に繋げていきたい。

おわりに

本稿は、TP チャートの作成を通じて、著者がこれまで経験的に行ってきた授業実践を、教育理念・方法・根拠資料・今後の課題という観点から整理したものである。今後は、本稿で可視化された理念を授業設計や評価方法により明確に反映させるとともに、学生のり

フレクシオンや授業評価を継続的に蓄積し、大学体育授業の改善に資する教育実践記録として発展させていきたい。

謝辞

本稿作成に際して、丁寧なご助言とご指導を賜りました筑波大学体育系・木内敦詞教授、そして大学体育スポーツ高度化共同専攻 2026 年度春学期「大学体育論」で意見を交わした受講者の皆さまに心より感謝申し上げます。

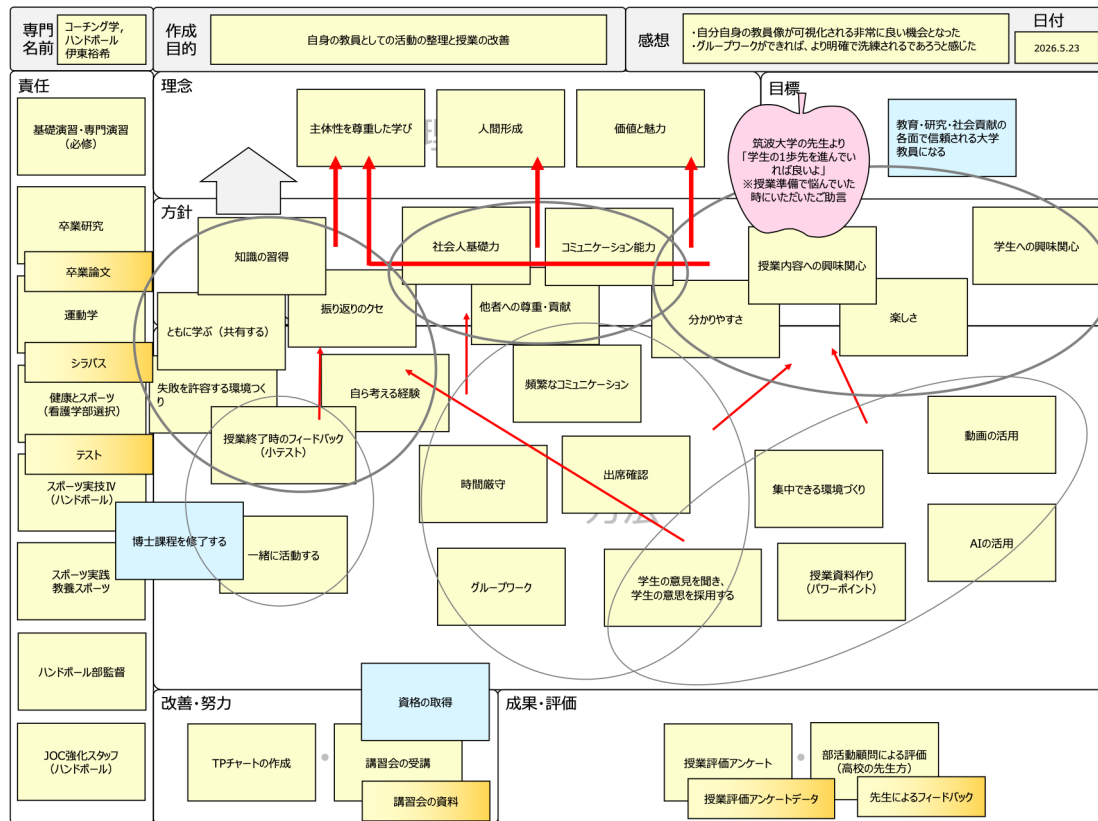
文献

栗田佳代子・吉田塁，リフレクシオンを可視化するティーチング・ポートフォリオ・チャート作成講座．医学書院，2021．
東京都市大学 FD 推進センター，2020 年度ティーチング・ポートフォリオ成果報告書，
<https://www.tcu.ac.jp/tcucms/wp-content/uploads/2021/03/20210325-605c90e90d057.pdf>，2026.7.16．

表 1. 2025 年度担当科目と教育活動

項目	概要
担当科目	基礎演習・専門演習（1～4 年次：前後期・必修）
	卒業研究（4 年次：通年・必修）
	運動学（1 年次：後期・選択）
	健康とスポーツ（1 年次：前期・選択）
	スポーツ実技Ⅵ（2 年次：前後期・選択）
	教養スポーツⅠ・Ⅱ（1 年次：前後期・選択）
	スポーツⅠ・Ⅱ（1 年次：前後期・選択）
	スポーツ実践（1 年次：前後期・選択）
	健康スポーツ科学（1 年次：前期・必修）
学内委員	FD 委員会
	紀要委員会
	施設運営委員会
部活動	体育会ハンドボール部監督
学外での活動	JOC 強化スタッフ（ハンドボール）

図 1. ティーチング・ポートフォリオ・チャート



© 2016 Kayoko Kurita

表 2 対応表

教育理念	授業方法	本稿で参照した資料
主体性を尊重した学び	・ 個人目標の設定	・ 授業計画
	・ 課題発見型のゲーム	・ TP チャート
	・ チームでの作戦会議	・ 授業評価アンケート
	・ 授業後のリフレクション	・ 授業後フィードバック
人間形成	・ 役割分担	・ 授業内観察
	・ 審判と得点係	・ 学生コメント
	・ 挨拶、礼儀	・ 授業評価
	・ フェアプレーの精神	
一人ひとりの価値と魅力を育む	・ 段階的課題設定	・ 学生記述
	・ 肯定的フィードバック	・ 授業評価
	・ 相互評価	・ 教員省察
	・ 動画による自己分析	

表 3. 2025 年度後期授業アンケート結果 (n=19)

評定値	Q1. 理解度	Q2. 満足度	Q3. 集中の雰囲気
5	13 68.4%	14 73.7%	13 68.4%
4	6 31.6%	5 26.3%	5 26.3%
3	0 0%	0 0%	1 5.3%
2	0 0%	0 0%	0 0%
1	0 0%	0 0%	0 0%
平均値	4.68	4.74	4.53

※ 本アンケートは 2026 年 1 月 14 日の授業終了時に実施した。

注：評定値：5 理解できた・満足した・集中の雰囲気を保つようにしている

評定値：4 どちらかという理解できた・どちらかという満足した・集中の雰囲気をたまに保つようにしている

評定値：3 どちらとも言えない

評定値：2 どちらかという理解できなかった・どちらかという満足しなかった・ほとんどしていない

評定値：1 理解できなかった・満足しなかった・まったくしていない